

令和5年11月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.54

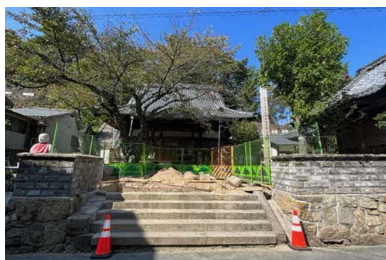
～令和5年度保存事業の報告～



建吉：最近は、急に涼しゅうなってきたのう。朝晩は寒いくらいじゃ。

もみじ：そうね。気温もぐっと下がってきてるから、これから紅葉も楽しみね。

建吉：秋の宮島はほんまにきれいじゃけえのう。



存光寺山門の現在の様子

もみじ：そういえば、棧橋ターミナルから町家通りへ歩いていると、存光寺の門がなくなってびっくりしたわ。

建吉：山門のことじゃな。あの門は今、修理のために解体して部材の確認なんかを行っとるんじゃ。

もみじ：そうなのね。

建吉：存光寺の山門は『芸州厳島図会』にも描かれる古いもんなんじゃ。この山門は、間口が1間約1.8メで木造平屋建ての切妻造・^{きりつまづくり}棧^{さんがわらぶき}瓦葺の^{やくいもん}薬医門^{やくいもん}なんじゃ。薬医門^{やくいもん}っちゅうのは、平屋建ての門の中じゃあ一番格式が高いものなんじゃ。左右の^{かがみ}鏡^{はしら}と^{ひかえばしら}控^{かぶき}柱が上部の冠木を支えて、それを大きな屋根で覆ったかたちの門なんじゃ。



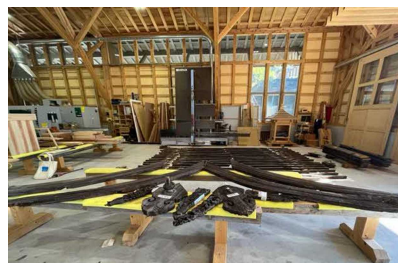
『芸州厳島図会』

出典：国立国会図書館デジタルアーカイブ

もみじ：修理ってどんなことをするのかしら。

建吉：伝建の修理はきれいにする修理じゃあので、昔の姿に戻すための修理なんじゃ。じゃけえ修理が一番ええのは、見た目じゃあ工事をしたことがわからんで、実は構造上強くなっとるっちゅうのが最も望ましいんじゃ。じゃけえ、構造上これからも使用できるもんは再利用するんじゃ。傷んどって、どうしても使えん部材は、その中で使

える部分を残して取り替えてのう、伝統的な技術がわかる部位は残さんにやあならんのじゃ。



解体した部材の様子

じゃけえ、存光寺の山門は、解体して使える部材を確認しながら修理をしとるんじゃ。今回の解体で、部材の接合面にはベンガラが塗られた跡がみられんけえ、ベンガラは山門として建てられた後に塗られたことが分かったんじゃ。

もみじ：修理が終わったらどんな感じになるの。

建吉：昔の姿に戻していくっちゅうことは、色なん



臺股（かえるまた）

かも修理して元々の色に戻していくことなんじゃ。じゃけえわしらが普段見とる色は100年以上経って褪せた色じゃ

けえ、ベンガラが塗られた当初に戻すっちゅうことは今までよりも鮮やかな色になるんじゃ。この山門はベンガラで塗装されとることが確認できてのう、山門の棟木の下に^{かえるまた}臺股があるんじゃが、ここにベンガラがしっかり残っとるんじゃ。じゃけえ。今回の修理じゃあ^{かえるまた}臺股のベンガラの色を基に塗装する予定なんじゃ。それにの

う、解体したことで^{かぶき}冠木の材の上部に名前や戒名がた



冠木上部の文字が書かれている箇所

れとることが分かったんじゃ。この山門を建てる時に、寄進をした人たちの名前じゃろうっちゅうことなんじゃが、今回の調査ではこの部分も写真にとって記録を残すんじゃ。

今昔写真を見比べて



上の写真は建設中の宮島歴史民俗資料館（西側）です。歴史民俗資料館は、昭和 47 年に着工、昭和 48 年に完成、翌昭和 49 年に開館しました。旧江上家の主屋と蔵を保存するとともに、庭を囲んで回遊できるように修景された建物が配置されました。右の写真は、現在の写真です。宮島の町家の特徴である格子のまちなみを再現しています。

※安全上の観点から支柱を後から追加していますが、町家の特徴ではありません。



文化財保護強調週間 Cultural Properties Protection Week

11 月 1 日から 7 日まで文化財保護強調週間となっています。宮島は、日頃から「厳島神社」などの国宝や各種寺院などの文化財に触れており、文化財の保護についてあまり意識することはないかもしれませんが、改めて文化財の島という特殊性を考えてみる機会にしてはいかがでしょうか。

町家に親しむ会からのお知らせ

伝統的建造物であることを示す「表示板」が設置されている建物は伝統的建造物の特定物件です。表示板が設置されている建造物にお住まいの方は、より伝建のことを知ることができる「宮島の町家に親しむ会」に参加してみませんか。身近な建物のこと、まちの歴史などを知るためにも、興味をお持ちの方は会に繋がりますのでまず市役所に電話でご連絡ください。

町家に親しむ会

開催日：毎月第 2 木曜日

※11 月はお休みです

場所：etto 宮島交流館など

お問い合わせ 宮島企画調整課宮島まちづくり推進係

TEL(0829)30-9119

